



法人化に向けた取組み

法人化・将来構想検討会会長 澤地 實

1. 経緯

法人化は、学会設立以来の悲願と言っても過言ではない。学術法人として社会に認知され、独自に国等の研究助成等を受託でき、さらに税制面で優遇されるなどメリットは大きい。

当初は、文部省(当時)に対して認可申請の説明手続きを重ねたが、省担当者の人事異動等で結局振り出しに戻るなど、法人化の壁は厚かった。だが、それにもめげず、その後も認可申請の説明を続けたが、そのうち NPO 法人の制度ができ、さらに公益法人関係の法制が改正されることになり、法人化の手続きを一旦休止し状況を見守ってきた。

2. 新制度

平成 18 年 6 月に公益法人制度が改正された。施行は 20 年 12 月とまだ先の話だが、要点は、各省庁の個別認可から内閣府認可へと統一されること、一般(社団、財団)法人は届出制となり要件さえ整えば容易だが、税制等で優遇される公益法人化は審査が厳しくハードルは高いこと、などである。その他 NPO 法人は、一般法人と公益法人の中間的な扱いとなる。また、既存の公益法人は、新制度への移行に 5 年の猶予がある。手順としては、まず一般法人化が必要で、その後公益法人の申請・認可となる。

3. 取組みの現状

法制度改正が具体化されたことに伴い、昨年 5 月の総会で、武田新会長の下、法人化・将来構想検討会が結成された。作業工程としては、法人化が可能となる平成 20 年 12 月の一般社団法人化とそれに引き続く公益法人申請を目標としている。そのためには、平成 20 年 5 月の総会での法人化承認手続きが必要となる。

主な対応課題としては、法人化に向けた定款の作成、経理等の事務執行体制の整備と現行任意団体からの移行手順がある。さらに研究受託体制の確立等、法人化後の学会発展に向けた準備が必要となる。

4. 学会名称と目的

定款作成上不可欠である学会名称と目的は、今後の学会のありように大きく関わり、且つ会員総意のとりまとめが必要な課題である。

そもそも廃棄物学会は「廃棄物学の進歩・普及を図る」という目的で 17 年前に設立された。当時は廃棄物の適正な扱いが社会的にも大きな問題となっており、時宜を得た学会設立として発展し、現在に至っている。ただ、その後社会状況は大きく変わり、現在では、廃棄物の適正な扱いは相変わらず重要な課題ではあるが、3R、循環、持続可能性といった、より広い範囲に学会活動が拡大している。こうした状況を受け、さらに今後の社会動向を想定したとき、従来の名称、目的に拘泥して今後とも進めるのか、それとも新たな社会状況を取り入れ、大きく包含するのか、大きな選択の岐路となる。

会員の発表テーマも循環等、既に大きく広がりがつつある。理事会では、こうした状況や将来の動向を見据えた時、廃棄物をベースに循環やリサイクル等を組み入れたより可能性の大きい名称、目的とすべき、という意見が優勢である。

5. 法人化を契機として更なる発展を！

法人化は、上記の学会名称、目的の一つをとっても学会の将来のあり方に大きな影響を及ぼす。理事会、各委員会等での論議だけではなく、会員各位が学会の現状と将来を見据え、この分野で何をを行い、学会とどう関わっていくのかを考えなければならない。

また、公の団体として社会的に認知される法人化は、さらに学会活動を発展させ、法制度や行政での取組みなどこの分野での影響力を行使できる学術団体となる絶好の機会でもある。チャンスを活かせるかどうかは、ひたすら今後の取組みにかかっている。

そのため、並行して作業を進めている将来構想は重要である。こうあるべきという構想ではなく、こうしたいという構想にすべきであり、学会の将来を担う若手会員にも積極的関与を求めている。将来構想は、静的なまとまりのある構想ではなく、ダイナミックかつ実効性あるものにしたい。

いずれにせよ学会の発展、社会への貢献は会員個々の活動の総和である。法人化を契機に学会のあり方等の論議が深まり、学会活性化へと発展することを切に願っている。

廃棄物学会 1 年の歩み

平成18年(2006年)の活動状況

5月に総会・研究討論会が川崎市で開催され、第9期会長に京都大学の武田信生教授が就任して、新しい執行体制が発足した。廃棄物学会の事業執行体制が変わり、従来の総務、編集、年会、企画、研究、国際の6委員会体制が、企画運営、編集、学術研究、国際の4委員会体制に集約された。平成2年に学会が発足して以来の最も大規模な改革である。会員数が平成14年度をピークに減少傾向が続き、学会の財政事情が厳しい状況に置かれていることから、この改革は事業執行の迅速化、効率化を図るとともに、より一層の経費節減を進めるために実施された。

11月には、北九州で17回目の研究発表会が開催された。電子投稿が本格導入され、プログラム編成や論文集編集の効率化が図られた。また、10年目を迎えた日韓廃棄物学会交流協定の更新調印式が、同会場にて行われ、英文論文誌の共同出版などの新しい試みが進められることとなった。さらに、研究発表会に引き続いて第2回アジア太平洋廃棄物専門家会議が開催され、今後のネットワーク構築に向けて、運営方法や活動内容に関する具体的な検討が進められることになった。

支部活動においては、前年同様18回の各種行事が実施され、支部を通じての地域活動が定着してきた感がある。当学会における2006年の活動状況は下表に示すとおりで、いずれも会員各位の協力を得て円滑に進められた。本年も、学会活動の更なる活性化に向けて、会員各位のご協力をお願い申し上げたい。

(企画運営委員会広報部会 松村治夫 記)



▲平成18年度総会の様子

平成18年(2006年)の活動状況

月 日	行 事	開催場所	テーマ・内容
平成18年 1月20日	NPO廃棄物地盤工学研究会、九州支部(共催)セミナー	福岡市	「不法投棄の実態と調査・現状回復事業」
2月25日	企画委員会 市民と学生のためのセミナー	東京都 杉並区	「いっしょにやろう環境教育」
3月18日	関西支部 セミナー	京都市	「第3回廃棄物法制度に関するセミナー」
3月25日	東海・北陸支部 平成18年度総会、市民フォーラム	名古屋市	平成17年度事業報告・収支決算報告・監査報告 平成18年度事業計画(案)・収支予算(案) 市民フォーラム「廃棄物のリサイクルと安全な最終処分」
4月11日	企画委員会 平成17年度特別セミナー	東京都 港区	「注目される一般廃棄物・産業廃棄物境界領域(ボーダレス)事業の展開」
5月11日 ~12日	韓国廃棄物学会2006年度春季 学術発表会 (国際委員会)	韓国 太田市	韓日特別シンポジウム、ポスターセッション
5月19日	中国・四国支部 講演会	松江市	大気環境学会・日本水環境学会・廃棄物学会中国四国支部合同講演会 「アスベスト問題の推移と課題 - ハイリスク空間と測定分析法 -」 「水道水中のアスベストの健康影響とその対策」 「地方における循環型社会の構築」
5月23日	平成18年度総会、平成17年度廃棄物学会賞表彰式	川崎市	平成17年度事業報告・収支決算報告・監査報告 平成18年度事業計画(案)・収支予算(案)
5月23日 ~24日	平成18年度研究討論会 (研究、年会委員会)	川崎市	「食と循環型社会」 「製品中有害物質管理の今後」 「循環型共生社会における適正処理のための施設整備のあり方」 「使用済み製品等の海外流出とEPRから考えるリサイクルの社会制度」 「自治体廃棄物処理事業の環境会計：現状と新たな展開」 「災害時の廃棄物に備える」

月 日	行 事	開催場所	テーマ・内容
6月10日	関西支部 市民と学生のためのセミナー	大阪市 北区	「～めぐる 世界のモノとごみ～」
6月10日	九州支部 平成18年度総会、講演会	福岡市	平成17年度事業報告・収支決算報告・監査報告 平成18年度事業計画（案）・収支予算（案） 講演会「都市におけるバイオマス資源の循環利用について」
6月23日	中国・四国支部 平成18年度総会、講演会	岡山市	平成17年度事業報告・収支決算報告・監査報告 平成18年度事業計画（案）・予算計画（案） 講演会「循環型社会形成に向けた総合戦略～規制・ビジネス・ライフスタイルのポートフォリオ～」 「広島県における環境関連の産業育成事業と研究開発支援事業について」
7月19日	東北支部 平成18年度総会、講演会	仙台市	平成17年度事業報告・収支決算報告・監査報告 平成18年度事業計画（案）・収支予算（案） 講演会「仙台市松森工場の概要について」 「秋田市ガス化溶融施設について」 「日本の廃棄物施策と実施上の問題点」
8月24日	北海道支部 見学会	苫小牧市	(株)苫小牧清掃社、北海道エコリサイクルシステムズ(株)、明円工業(株)
8月31日	企画運営委員会 平成 18 年度シンポジウム	横浜市	「廃棄物問題と我国の国際的対応」
9月2日	九州支部（共催） 市民フォーラム	福岡市	九州大学 21 世紀 COE プログラム「循環型住空間システムの構築」
9月22日	中国・四国支部 見学会、セミナー	広島市 廿日市市	「廃棄物処理業の今後の展望と、きなり村コンセプト」 「プラスチック廃棄物のリサイクルについて」
10月16 ～17日	九州支部（共催） シンポジウム	福岡市	九州大学 21 世紀 COE プログラム「循環型住空間システムの構築」
10月23日	東北支部 秋田地区講演会 2006	秋田市	「秋田で考える循環型社会 ～資源と環境配慮型の地域社会を目指して～」
11月2 ～4日	APLAS Shanghai 2006	中国 上海市	基調講演、口頭発表（4セッション）、ポスターセッション、施設見学会
11月18日	九州支部 市民フォーラム	北九州市	「ごみについて徹底討論しよう!!」 - 持続可能な社会を将来世代につなぐために - 「九州の市民活動の取り組みの現状と課題」 「市民活動の連携について-容リ法改正全国ネットの活動から-」
11月20日～ 22日	第17回研究発表会 （学術研究委員会）	北九州市	研究発表(43セッション、国際ポスターセッション)、特別シンポジウム、日韓廃棄物学会協力協定調印式、国際シンポジウム、小集会
11月20日～ 23日	エコ・テクノ2006	北九州市	廃棄物学会および廃棄物学会九州支部の活動紹介のためのポスター展示および資料配布
11月23日 ～24日	第 2 回アジア太平洋廃棄物専門家会議 （国際委員会）	北九州市	「廃棄物の適正処理と 3 R 推進のための専門家ネットワークの形成」
11月25日	NPO 環境管理システム研究会、 九州支部（共催）セミナー	福岡市	「水俣環境モデル都市」という出口、そして再生へ！
12月2日	北海道支部 セミナー	札幌市	「循環型社会に向けた私の発信 - 北のリサイクル - 」
12月5日	関西支部 平成 18 年度総会、技術セミナー、 見学会	大阪市	平成17年度事業報告・収支決算報告・監査報告 平成18年度事業計画（案）・収支予算（案） 技術セミナー「PCB廃棄物処理の現状と今後」 見学会「日本環境安全事業（株）大阪事業所」
12月6日	平成 18 年度技術セミナー （企画運営委員会）	東京都 大田区	「食品廃棄物リサイクル技術の最前線」
12月16日	九州支部 研究集会	福岡県 朝倉郡	「ガス化溶融技術導入の成果を検証する研究集会 - 循環型社会構築に向けた成果の検証 - 」

平成 19 年 1 月 26 日

